

1

イオン株式会社

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3の排出量についても認識し、対応策を検討する一助として、算定を捉えています。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● 近年、外部からの開示要求も増加しているため、必要な情報を的確にステイクホルダーの皆様を提供することを念頭においております。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3の排出量の把握により、ホットスポットを特定し、削減余地の洗い出しにつながるとして取り組みを始めました。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● ISO140001や、ISO50001などのマネジメントシステムを基盤とした体制を活用し、グループの関連企業よりの進捗報告を元に、算定を行なっております。

	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none">● 弊社事業のサプライチェーンについて、CO2の見える化、ホットスポット特定を実施し、削減のための活動を継続して参ります。 今回は、より具体的なアクションにつなげるため、グループの主力事業である、GMS(総合スーパー)事業、SM(スーパーマーケット)事業にバウンダリーを特定し、データを収集致しました。活動量のデータも、削減余地の特定、削減管理を念頭に、これまで以上に踏み込んで取得致しました。
□ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none">● 自社の戦略と結びつけ、削減に積極的に取り組む分野の特定と、目標設定マイルストーンの設定が急務となっております。
□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ	<ul style="list-style-type: none">● 社内で、エネルギーや、資材の削減などCO2削減につながる目標を持ち、進捗管理をされている分野から算定を始めると良いかと思えます。

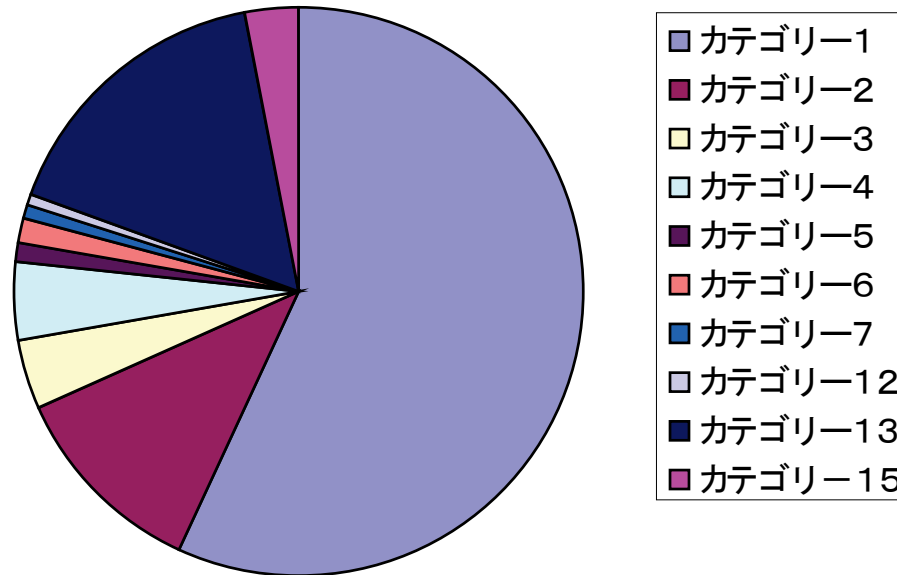
3

イオン株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 商品種別売上	● 金額当たり原単位
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● 資本財あたりの排出原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● エネルギー量あたり原単位
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量	● 燃料あたり原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別処理方法別排出量	● 廃棄物種類別処理方法別原単位
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額(移動手段別)	● 交通費支給額当たり原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額	● 交通費支給額当たり原単位
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 弊社では、SCOPE1と2のGHGとして計上しております。	
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● GHG排出量全体への寄与度が低いため、算定しておりません。	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● GHG排出量全体への寄与度が低いため、算定しておりません。	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 今回は、算定の対象としておりません。	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● テナントのエネルギー使用量	● エネルギー量あたり原単位
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 今回の対象事業スコープでは、算定対象外です。	
カテゴリ15「投資」	● 持分適用会社のGHG排出量	
「その他」	● 今回は、算定の対象としておりません。	

スコープ3の排出割合

□ 算定結果



イオングループのGMS(総合スーパー)事業およびSM(スーパーマーケット)事業のスコープ3排出割合